

Q26. ダムが緊急放流を行うとダムの下流は危険になるのでしょうか。

- 計画に用いる規模を上回る降雨が発生し、ダムの貯水位が洪水時最高水位（サーチャージ水位）を超える予測となった場合には、ダムからの放流量をダムへの流入量（ダムが無い場合に、自然に流れている流量に相当）と同程度まで徐々に近づける操作を行います。この操作を「異常洪水時防災操作」、いわゆる「緊急放流」操作と呼びます。
- 「緊急放流」となった場合、ダムからの放流量がダムへの流入量と同程度となるまでの間は、「ダムがない場合の流量」よりもダムからの放流量は小さく、その後、ダムへの流入量と同程度の流量を放流する状態となった場合でも、「ダムがない場合の流量」よりも多く放流する操作は行いません。

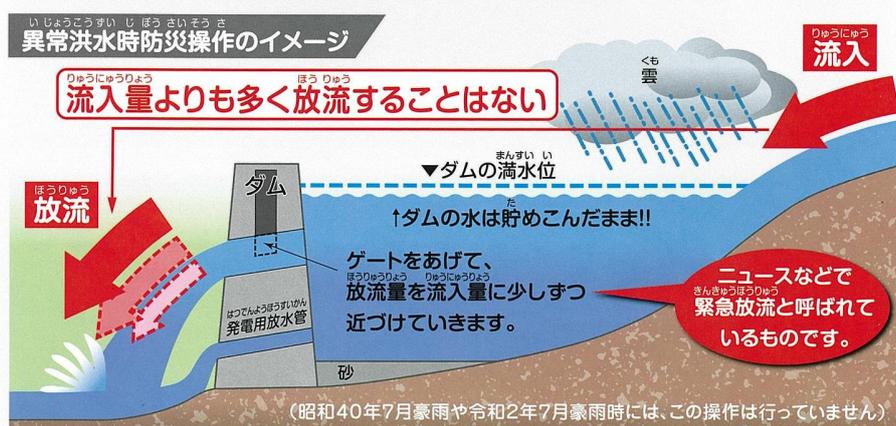
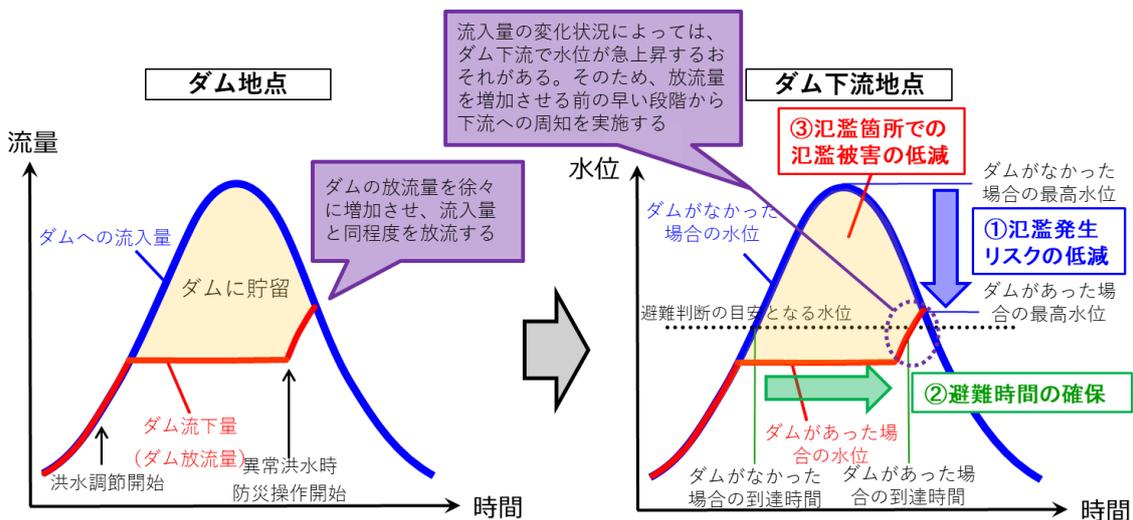


図 異常洪水時防災操作のイメージ図

○ 「緊急放流」を行った場合、これまでの操作に比べてダム下流で水位が急上昇したり、ダム下流の河川の流下能力を上回る流量となった場合に氾濫が発生することはありますが、「ダムが無い場合の流量」よりも多く放流する操作は行わないことから、ダムがない場合と比較すると、「氾濫発生リスクの低減（ピーク水位の低減）」、「避難時間の確保」、「（上流ダム地点で貯留することによる）氾濫箇所での氾濫被害の軽減」の効果があると考えられます。

○ そのため、ダムの洪水調節により避難時間が確保されている間に避難するなど、適切な行動を行うことが重要であり、避難を判断するための情報伝達や水害リスクの周知について、流域治水プロジェクトの一環として、流域全体で取り組みます。



※異常洪水時防災操作とは  
計画を超える規模の出水によりダムの洪水調節容量を使い切る可能性が生じた場合、放流量を徐々に増加させ、流入量と同程度を放流する操作

図 異常洪水時防災操作のイメージ